洋学資料館

No. 34
October, 2024

CONTENTS

前期企画展 資料が秘めた物語Ⅴ……2
第77回文化講演会……3
洋学資料館の夏休み教室開催!!……4
友の会の活動……5
NEWS FILE……6
資料館展示品から……7
INFORMATION（催し物のご案内）……8

眼下に広がる美甘宿（真庭市美甘）です。幕末から明治期にかけてこの地域の医療に従事した医師に漢蘭折衷派の横山廉造（1828～1884）がいます。備中の陽明学者山田方谷や備前の漢方医久山楽山に学びますが、さらに高水準の医学を求めて京都の蘭方医小石元瑞（究理堂）で外科・内科を、続いて大坂の華岡分塾（合水堂）で華岡南洋から外科術を修得後帰郷しました。方谷が晩年、湯治のため出かけた湯原温泉の帰路立ち寄った屋敷（香杏館）が、今でも旧道沿いに残されています。

文・写真：名誉館長　下山純正

津山洋学資料館
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

前期企画展

資料が秘めた物語 Ⅴ

■ 会期：令和6年3月9日（土）～9月8日（日）

博物館に収蔵された資料は、その資料が作られてから現在にいたるまで長い年月を、多くの人の手を介して守り伝えられてきました。その過程で経てきた様々な出来事が、資料には歴史として刻まれています。色々な角度から光をあてて研究することで、資料はその秘められた物語を語り出すのです。今回の企画展は、7つの物語で構成しましたが、その中からいくつかをかいつまんでご紹介します。

「箕作なおの輿入れ」では、箕作なおの嫁入り箪笥を紹介しました。なおは阮甫の孫で、秋坪とちまの娘であり、麟祥・奎吾・大麓・佳吉・元八の妹にあたります。この箪笥は彼女が20歳で人類学者の坪井正五郎に嫁いだ際、両親が「嫁入り道具」として持たせたものです。また、会期直前には、なおの兄で、ちまと省吾の息子である麟祥のご子孫の方より、なおの箪笥と形がよく似た箪笥が新たに寄託され、兄妹の箪笥がそろってお披露目となりました。

「出版すること―校正の苦労―」では、宇田川榕菴と大槻磐渓の「校正」の苦労を取り上げました。宇田川榕菴著『植学啓原』の出版前の色校正図には、「こく」「うすくふく」など榕菴の細かい「こだわり」の指示が見られ、出版されたものをみるときちんと修正されていることが分かります。また、大槻磐渓著『奇文欣賞』では、誤字や誤刻が多いことを京都の出版元に指摘し、早急に修正するよう手紙を出しています。

観覧者の皆さんは、それぞれに秘められた物語をひも解きながら、興味深そうに資料に見入っていました。

第77回文化講演会

『「近代的啓蒙」と明治日本の国家構想 －西周と津田真道－』

講師 早稲田大学文学学術院教授 谷口 眞子 先生

4月16日(土)、早稲田大学文学学術院教授の谷口眞子先生を講師にお招きし、第77回文化講演会を開催しました。津山市では、島根県の津和野町、大分県の中津市と「蘭学・洋学 三津同盟」を締結し、各市町の博物館施設との交流や、ゆかりの蘭学・洋学者の顕彰活動を行っています。この同盟にちなみ、オランダでライデン大学のフィセリング教授から講義を共に受けて学んだ津和野町出身の西周、津山市出身の津田真道を中心に、欧米に渡り帰国後、慶應義塾を創立した中津市出身の福澤諭吉など、幕末から明治初期にかけて海外に留学し西洋の近代的な学問を身につけた人々が、日本の近代化についてどのように考え、また人々をどう導こうとしていたのかについてお話しいただきました。

先生は、「近代」の国家構想を考察する際、幕末維新期の蘭学者・洋学者が置かれた状況を当時の目線で考える必要性に着目されています。そして、従来取り挙げられてきた津田と西の共通点について、オランダ留学だけでなく、同じ年の兵部省入省や、陸軍省における同じ部署での勤務、ともに明六社社員になっていることなど、経歴の共通性を指摘されました。

聴講された皆さまは明治維新期、文明開化の日本をリードしていった人々が、これからの国家についてどのような構想を持っていたか、興味深そうに聞き入っておられました。

洋学資料館の夏休み教室開催!!

□ヒンデローペン・トートバッグの作品づくり

7月27日(土)に小学生の親子向け、翌日の28日(日)には一般向けに、オランダの伝統工芸であるヒンデローペンの作品作りのワークショップを開催しました。今年はトートバッグの絵付け体験です。

今回も、講師には当館展示室の装飾を描かれたKinukoヒンダローペンスタジオの永江絹子先生をお招きし、ご指導いただきました。

トートバッグの表面にアカンサス、ブルーベリーやポピーなどの絵柄を付け、最後は中央に鳥を描いて仕上げます。

参加者の皆さんは、それぞれ真剣な面持ちで絵付け体験に臨まれ、出来上がったお気に入りの作品をうれしそうに持って帰っていました。

□むかしの学者もやった化学実験

8月3日(土)に化学実教室が開かれ、約30人の子どもたちが参加されました。この化学実験教室は、津山藩医の宇田川榕菴が著した日本初の本格的な化学書である『舎密開宗』に掲載されている化学実験を再現するというイベントです。

1つ目は、津山高専の廣木一亮先生と同校の学生による「みず、ミズ、水～宇田川榕菴と水の正体～」と題した実験で、水を沸騰させて気体に状態変化する様子を確認したり、酸素と水素を混ぜた気体に火を付け爆発させて水を生成させたりしました。

2つ目は津山高校の生徒たちによる「宇田川榕菴と結晶～ストームグラスを作ってみよう～」と題した実験で、エタノールに溶かした樟脳と蒸留水に塩化アンモニウムと酢酸カリウムを混ぜてストームグラスを作るという内容です。どちらの実験も子どもたちは熱心に取り組んでおり、実験後には展示室の『舎密開宗』を見学する様子も見られました。

□人体のしくみやはたらきについて学ぼう！

8月10日(土)に、川崎医科大学現代医学教育博物館の中村信彦先生、梅田由布香先生、森川奈津美先生のご指導による「人体のしくみやはたらきについて学ぼう！」を開催しました。

まず、当館学芸員が『解体新書』についての説明をした後、講師の先生方から、人体の臓器それぞれの機能について解説がありました。続いて、脳や心臓、肺などの実物標本をスケッチしながら、臓器の形や役割などを把握しました。その後、紙エプロンに臓器のシールを貼ることで、臓器の場所や大きさなどを学びました。

今回は、初めて小学校全学年を対象に行われ、多くの方からご応募を頂き、盛況の中イベントを終えることができました。臓器の説明の中で「腺」の文字が宇田川玄真の造語だということにも言及がありましたが、今回のイベントを機に洋学にも興味を持ってくれる子どもが増えてくれればうれしく思います。

友の会の活動

第41回友の会研修バス旅行
港町室津と鵤の宿場を訪ねて

6月1日(土)、友の会研修バス旅行を実施しました。今回はシーボルトゆかりの地である、兵庫県のたつの市室津と太子町を訪ねました。

室津では、地域のボランティアガイドの案内のもと、潮待ちの港として栄えた、町並みを歩きました。江戸時代には、本陣が6つと廻船問屋などが軒を連ね、現在も所々にその面影を見ることができます。また、賀茂神社は、シーボルト著『日本』に掲載され、その景観を絶賛していますが、当時と変わらぬ、その美しさに参加者は息を呑んでいました。

賀茂神社の境内にて

その後、太子町に移動し、町立歴史資料館を学芸員の案内のもと見学しました。最後は、聖徳太子ゆかりの斑鳩寺です。ここでは、住職さんのユーモアたっぷりの講話と案内のもと、聖徳殿と宝物館を見学しました。

心配されていた雨はなく、季節外れの暑さの中でしたが、楽しい研修旅行となりました。

斑鳩寺の門前にて

NEWS FILE

箕作重秋氏からの指定寄付と資料のご寄贈

4月に、海洋動物学者の箕作佳吉の曾孫に当たる箕作重秋さんから、指定寄付金と佳吉に関する資料41点をご寄贈いただきました。先代の秋次さんからも多数の資料をご寄贈いただいていますが、今回の寄贈資料には、研究者の側面がわかるもののほか、妻安子への手紙など、彼の人となりが感じられるものも含まれています。

海外滞在中に妻に送った手紙

▲勲二等瑞宝章の徽章

◀スポット展示の様子

その中から6点の資料を選び出し、博物館実習生にも展示替えを体験してもらい、スポット展示コーナーで紹介していますので、ぜひご覧ください。ご寄付は、貴重な洋学関係資料の購入に充て、有効に活用させていただきます。

開成高校の生徒が来館されました

6月5日(水)に東京から開成高校の学生が修学旅行で来館されました。修学旅行は5日間で、岡山・広島を巡る日程となっており、津山は3日目の来訪でした。前日までは無人島での自給自足を行っていたとのことで、さぞお疲れだったと思いますが、皆さん学芸員の解説を集中して聞いて下さり、津山洋学について理解を深められたのではないでしょうか。

新採用教員研修

8月20日(火)、岡山県新採用教員研修が洋学資料館で行われました。普段の教える立場ではなく見学する側で研修に来られた皆様は、学芸員の説明を熱心に聞いておられました。

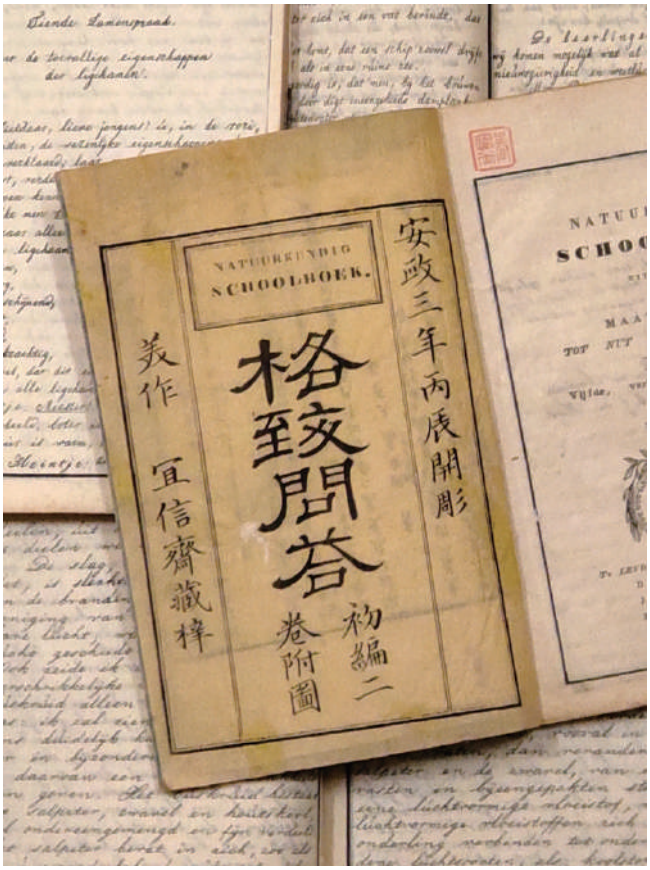
博物館実習生受け入れ

8月20日(火)～24日(土)の5日間の日程で博物館実習生4名を受け入れました。実習では、資料整理や写真撮影、展示替えなどを体験してもらい、最終日には展示解説を行いました。緊張した面持ちでしたが、しっかりと解説できていました。実習生からは「津山への郷土愛が深まった」、「実習で学んだことを今後に活かしていきたい」といった感想を聞くことができました。

資料館展示品から

秋坪が翻刻した物理学教科書

『格致問答』



安政2年（1855）3月、56歳になった箕作阮甫は、家督を秋坪に譲って隠居しました。それと同時に秋坪は藩主後継者であった松平慶倫の御匙代を命じられます。「御匙」とは、薬の処方を匙で行なったことからそう呼ばれたもので、次の藩主の薬を調合する責任ある立場でした。

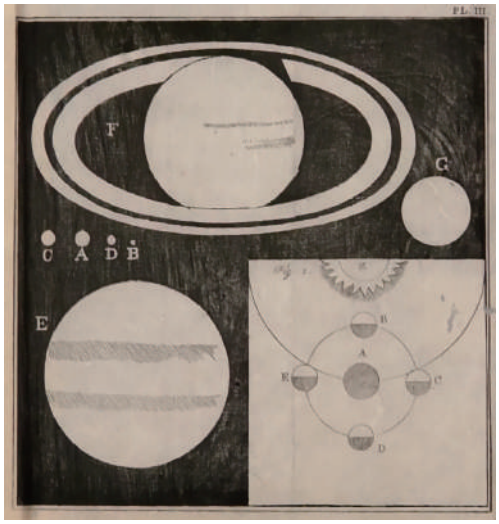
その翌年に秋坪が刊行したのが『格致問答』です。「格致」とは「格物致知」という儒教の言葉を略したもので「物の道理を極め、知的判断力を高める」という意味です。そして、生徒が先生に質問する形式で解説されているので「問答」と名づけられています。これは、オランダの科学者ヨハネス・ボイスが著した物理学の教科書を、題名だけ日本語にしてオランダ語の原文のままで刊行したものです。さらに安政5年（1858）には、第二編を出版しています。

当時、このボイスの本は、国内でもとても評判が良く、多くの蘭学者が利用していました。青地林宗によって刊行された日本で最初の物理学書『気海観瀾』も、この書の一部を訳したものでした。

有名な蘭学塾や各地の藩校でも、オランダ語の原書が教科書として使われていましたが、原書は数が少ないうえに高価で、学生たちは手書きで写していました。そこで秋坪は、学生たちの書き写す手間や写し間違いをなくして、勉強に役立たせようと、原文のままで本書を刊行することを考えたのでした。

秋坪は完成した本を、大坂の適塾で教えを受けた緒方洪庵にも贈っています。洪庵からの礼状には「良い本を出版されたので、大いに広益になることでしょう」と率直なほめ言葉がしたためられています。

秋坪はこの後、オランダやイギリスなどヨーロッパ6カ国とロシアに渡って外交交渉に奔走することになります。そのためか、意外にも秋坪がその生涯で刊行したのは、この『格致問答』だけでした。



初編巻末の付図には土星や木星の図もあり、天体観測によって物理学の法則が発見されたことを説明しているものと思われます。

文：当館HP「洋学博覧漫筆」42から転載

INFORMATION

令和６年度の催し物（予定）

		企画展
4月	■ 企画展「資料が秘めた物語Ⅴ」 ■13 第 77 回文化講演会・友の会総会 （休館日：15･22･30 日）	3/9～ 資料が秘めた物語Ⅴ ～9/8
5月	（休館日：1･7･8･13･20･27 日）	
6月	■1 友の会研修バス旅行 （休館日：3･10･17･24 日）	
7月	■27 親子でヒンデローペンの作品づくり ■28 ヒンデローペン絵付け体験教室 （休館日：1･8･16･17･22･29 日）	
8月	■ 3 江戸時代の化学書からの再現実験教室 ■10 人体のしくみやはたらきについてを学ぼう！ （休館日：5･13･14･19･26 日）	
9月	■28 「中津藩と蘭学の夜明け」 （休館日：2･9･17･18･24･25･30 日）	9/28～ 中津藩と蘭学の夜明け ～11/4
10月	（休館日：7･15･21･28 日）	
11月	■ 友の会史跡見学会 ■23 「津山藩最後の藩医 芳村杏斎」 （休館日：5･11･18･25･26 日）	11/23～ 津山藩最後の藩医 芳村杏斎 ～2/6
12月	（休館日：2･9･16･23･29 ～ 31 日）	
1月	■26 オムニバス講演会 （休館日：1 ～ 3･6･14･15･20･27 日）	
2月	（休館日：3･10･12･17･25･26 日）	
3月	（休館日：3･10･17･21･24 日）	

■企画展　■催し物　■講演会　■友の会

※催し物は予告なく変更となることがあります。なるべく資料館ホームページでご確認ください。

ー職員の異動ー

（新採用）学芸員　魚谷なつみ
令和５年１１月１日付

（新採用）学芸員　松田　拓磨
令和６年４月１日付

ご利用案内

■ 開館時間／9:00～17:00（入館は16:30まで）
■ 休 館 日／月曜日（祝祭日の場合はその翌日）
祝日の翌日、年末年始（12月29日～1月3日）
■ 入 館 料／

一　般	一般（65歳以上）	高校・大学生
300円（240円）	200円（160円）	200円（160円）

※（　　）内は30名以上の団体料金です。
※小学生・中学生は無料です。

●交通のご案内
・JR津山駅から東循環ごんごバス南廻り線で12分、西新町下車徒歩2分
・中国自動車道　津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分

津山洋学資料館
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地
TEL(0868)23-3324　FAX(0868)23-9864
URL http://www.tsuyama-yougaku.jp

洋学資料館　№34　令和6年10月発行　■津山洋学資料館／編集・発行　■二葉／印刷